

文芸 さくらがわ

俳句

【桜川市岩瀬「秋」俳句会】

月を背に三々五々と鶴渡る

小林 啓治

独りには独りの愁ひ後の月

萩原 勲彦

吹き上ぐる風に枯れ葉の小宇宙

三代 みちよ

晴れ渡る家の内外冬仕度

入山 ひろ子

冬めきて見馴れし山の姿ふり

若色 寿美女

廃校をきれいにそめる銀杏かな

金田 とう女

微笑みも介護のひとつ柚子湯かな

細谷 充女

鳥獣哀しく啼くか星月夜

渡辺 千恵子

夫と吾だんまりのまま冬仕度

斎藤 みよ子

組板の凹み気にしつ鮭を切る

萩原 きしの

【茂山俳句会】

日程を入れてふくらむ十二月

今井 繁子

雑念を払ひ退けたる冬至風呂

鈴木 つぎ

村時雨木椅子の固き無人駅

宮本 立男

海風の吹き抜ける径石路の花

海老沢 幸子

すいとんで生きて八十路や夫の冬

鈴木 ノブ子

大マスク誰と判らず遠会釈

宮本 芳江

枯れ尽くすものを隔てて葱畑

海老沢 静夫

七五三カメラの前で大欠伸

笠倉 陽子

曾孫来て膝に納まる炬燵かな

竹林 てる

霜晴や野山一面引きしめて

田崎 信子

石切りの餅乱れぬ冬至かな

君島 真理子

予報士の丸刈り似合ふ冬立つ日

吉原 秀子

使ひ捨て時代に生きてマスクかな

大関 くに

役得の茹でたて啜る走り蕎麦

吉原 京子

紅葉の真つ只中へバスの旅

皆川 一女

みかん園終りを告げる冬至かな

金子 弘毅

二重三重気ままに秋の波崩れ

松崎 いま

夜長の妻ぼそりと一語発しけり

植田 祥雲

草野球逆転で勝ち冬至風呂

泉 健作

水槽の鯨もマンタも小春かな

飯山 昭

短歌

【桜川 歌壇の会】

筑波嶺の上に浮びし雲一つ神の旅立つ一日動

黒田 青磁

かず

榎戸 栄子

朝起きて空見上げては雲多き洗濯物に見入り

榎戸 栄子

困惑

榎戸 栄子

漂泊の雲足早く西空へわれの行く手の迷いを

田沼 むめ

大空に雲一つなき高速道夾竹桃の赤白映ゆる

中沢 一紅

波一つなき湖をカンバスにくつきり画かるる

島 杜桃

鱗雲かな

島 杜桃

アルプスの峯にも似たる白雲のたちまち崩れ

滝田 きく江

遠雷を聞く

滝田 きく江

風の音梢もささやき鳥啼きて筑波の空に別れ

山下 孝平

雲あり

山下 孝平

棧窓下地球を離れ白雲布く朝日は赤く一線を

平塚 節子

引く

平塚 節子

秋空へ画いてみたし心の絵さいはてに雲一つ

皆川 米子

なき空

皆川 米子

雲間より飛行機一機西空へ加波の峰より消え

中原 すみ子

て行くなり

中原 すみ子

俚謡

【さくら俚謡会】

寒い朝でも足取り軽く心爽やか初詣

岩瀬 絵都女

寒さ知らないひつじの毛糸母の手編みを偲ぶ

つく志 輝美

新春

つく志 輝美

今じゃ遠退く正月神事鴉呼び込む蹴始め

一木 みどり

地蔵に悟れば一切空の背なに慈愛の雪が舞う

稲葉 建正

値上げ震災暴れたうまを越えりや若草食むひ

田 哲人

つじ

田 哲人



広報 さくらがわ 有料広告 募集中!

- サイズ 1 枠 45mm×85mm、2 枠 45mm×172mm
- 掲載料 (月額) 1 枠 10,000 円、2 枠 20,000 円
- ※連続掲載で割引制度があります。

■問合先 秘書広報課 ☎58-5111-75-3111、内線1268

あなたの側で、
誠実に、忠実に。

株式会社 デジタル印刷
TEL 0296-54-2626 (代)
FAX 0296-54-2724
www.digital-54-2626.com